

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902363		
法人名	有限会社 スマイルプラン		
事業所名	グループホーム スマイルプラン		
所在地	北海道旭川市永山11条2丁目2番2号		
自己評価作成日	平成31年1月24日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_02\\_2\\_kani=true&JigyosyoCd=0172902363-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0172902363-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	平成 31 年 2 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から12年が経ち、利用者が重度化していますが、出来る限り屋外に出る機会を持ったり、張りや楽しみのある生活が送れ笑顔になれるように支援しています。  
 個々の出来る能力を生かした役割を持ち、一人一人の個性を尊重するような支援に努めています。  
 職員全体でより良いサービスを提供出来るように、研修参加やホーム内での研修を充実させています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームスマイルプラン」は、利用者のニーズに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスを提供している事業所です。本人の気持ちに向き合い、思いや希望を受け止め、地域と密着しながら利用者の暮らしを支えています。利用者の食が進む希望する時間に食事を提供したり、起床時間や外出先など、これまでの生活歴を大切にしています。地域とのつきあいでは、町内会や商店街の夏祭りでは利用者が手作りしたものを提供したり、事業所の出店ブースで利用者が活躍するなど、地域住民、利用者、職員の力の積み重ねによって豊かな交流が実現しています。職員の年齢層は幅広く、若い職員は孫のように、人生経験豊かな職員は、利用者のこれまでの人生を尊び労わりながら、利用者の人生の応援団のごとくケアサービスに尽力しています。また、運営推進会議は課題改善や社会資源などの情報が集まる場となっています。利用者が力を発揮できる場を豊富に整えている事、研修体制の充実、写真満載の通信、レクリエーション、手作りおやつなども優れている点です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して会議に理念に沿ったケアを周知している。	「地域に支えられその人らしい生活が送れる」との運営理念の他に、「声なき声に耳を傾け寄り添い共に生きる」の介護理念を掲げています。職員は理念に基づいた支援に努め、利用者が安心できる日々の暮らしを支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りに出店参加したり、散歩や買い物の際に地域の住民との関わりを持っている。また月一回の地域交流のカフェにも参加している。	商店街夏祭りには利用者手作りの七夕飾りが掲げられ、町内会夏祭りでは職員が設営を手伝いや焼き鳥の提供をし、利用者も出店で子供たちと触れ合うなど祭典を楽しんでいます。地域から花やタオル、果物の差し入れなどもあり、地域との相互交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民への認知症サポーター養成講座や地域のSOSネットワークへの協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議で、日々の報告やご意見を伺う機会を持っている。議事録は家族に送付している。	2ヵ月毎の会議運営に尽力し、定例の報告の他、事業所の課題等について積極的に協議されています。地域との交流促進や災害対策、また、身体拘束適正化、感染症対策など、メンバーから多様な意見が出され活発な会議となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には、毎回運営推進会議に参加して頂いている。また、2ヶ月毎の地域包括主催の会議に参加して定期的に情報交換をしたり、適宜相談も行っている。	市の担当者より適切な運営に向けた指導を得たり、書類関係で意見を仰ぐなどしています。地域包括支援センター主催の会議に出席し、情報交換や事例検討を行うなど、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を年に2回実施している。身体拘束廃止委員会も3ヵ月毎に行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会及び「身体拘束適正化のための指針」が整備されています。身体拘束に係る内部研修会では地域包括支援センター所長が外部講師として招かれ職員に講義を行っています。「虐待の芽のチェックリスト」で職員へ確認する態勢があり、その内容を研修会で検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加の他、ホーム内でも研修を行っている。日頃から利用者の尊厳を大切にするように心がけ、虐待及び不適切なケアが行われない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し制度を学んでいる。必要に応じてご家族に情報提供をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明を行い、納得した上で入居して頂いている。解約や変更事項がある時も文章や口頭での説明を行い、必要に応じて書類を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に手紙で状況を伝えている。面会時にはいつでも意見や要望が伝えやすいような雰囲気作りにも努めている。	利用者からの要望があり、吸煙装置を導入して喫煙できる態勢にしたり、家族からは一時帰宅の送迎や本人へ食べさせて欲しいものについて意見が出されるなど、その都度対応に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の自己評価表を利用したり、普段の会話やミーティング等で意見や要望を確認している。	施設長、管理者は、自己評価表を活用した年に一度の個別面談の際や適宜職員から就業に関する要望等を聞き、法人代表者と相談しながら働きやすい環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護初任者研修や実践者研修の受講料、介護福祉士受験料の一部を事業所が負担し、資格取得へのサポートでやりがいや向上心を持って働ける職場環境を整えている。個々の状況に応じて労働時間を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃より職員にあった研修会への参加の機会を持っている。ホーム内研修もを行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他事業所とは研修会や地域包括の会議の参加でネットワーク作りにも努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では職員も一緒に訪問し、本人が困っていることや不安なことを把握している。職員間で情報を共有し、入居後にも利用者寄り添い良好な関係作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から時間をかけてお話を伺っている。困っていること、不安に思っていることなどを聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望はその都度聞き、その時に必要な支援をする様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自己決定を尊重し、得意なことや好むこと等を支援し、共に支え合う環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を大切にしながら、ご家族が面会に来た時には最近の様子を伝えたりなどゆっくり話をする機会を持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や信仰の集会への参加、友人や家族との外出も支援しており、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	遠方から訪ねて来る友人との外出の際に介護タクシーを手配したり、利用者が大切にしている集会への参加の際は必要なものを事前に購入する支援等を行っています。一時帰宅の送迎も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で出来ることを役割分担し、お互いが支え合う関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもこれまでの関係性を大切に、必要に応じて相談など支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話を大切に、思いやりや希望をくみとる様に心がけている。困難な場合は出来る限り本人本位に過ごせる様に検討を行っている。	日々、利用者との関わりの中で言葉に出来ない思いを感じとり、職員間で情報を共有しながら本人本位となるよう検討しています。センター方式を使用し、内容を蓄積しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に意向や生活歴等を確認し、落ち着いて生活が出来る環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで個別に状況話し合い、日々の関わりの中からも情報を把握し共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活するため、本人や家族の意向を確認している。カンファレンスで状態を確認しながら、意見を出し合い介護計画書を作成している。	毎日の申し送り時に個別ケアの検討が行われ、月1回全員でのケアカンファレンスを行い確認しています。センター方式によるケアマネジメントを丁寧に行っており、本人がより良く過ごせるための計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護計画や申し送りで共有している。実践した結果や状態確認しながら、意見を出し合い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望やその時の状況に応じて柔軟に対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街の夏祭りには七夕飾りを作ったり、町内会の夏祭りに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向を大切にしている。24時間対応の医療機関による月2回の往診と、週1回の訪問看護を受けている。その他の受診は職員が同行し経過や状況を伝えている。	利用開始時に家族等とかかりつけ医について相談し、適切な医療が受けられるよう対応しています。自己評価にある実施状況のほか、歯科・整形の訪問診療の態勢があります。「受診結果表」「往診表」に医療内容を記録しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が週1回訪問に来ている。看護師に相談しながら健康管理や医療的な支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も適宜面会をしながら、主治医、看護師、医療相談員、家族からも情報を頂きどの程度で受け入れが可能かも伝え、早期に受け入れが出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りは家族と一緒に支えていくという方向性で支援している。3年程看取りの対象となる利用者はいなかったが、研修の参加で介護技術の向上を図ったりマニュアルの整備をしている。	重要事項に「重度化した場合における対応に関する指針」を明示し、家族の同意を得ています。重度化に向かいつつある場合も家族と適宜話し合い方針を共有しています。職員は褥瘡予防や排泄ケア等の研修を受け、対応力の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や年に一度の救急救命の研修で、職員全員で実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には町内会の方も参加頂いている。災害に対応出来る備蓄を整備し、地域住民との協力体制も築いている。	6月に消防署、地域住民の協力を得て日中・火災想定での避難訓練を実施し、10月は消防設備会社の立会いのもと夜間想定で避難訓練を行っています。災害備蓄品の見直しや追加を行っています。	利用者の入浴時等様々な場面、場所からの避難誘導についても想定する考えを示していますので、その取り組みに期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修で学び、利用者への対応や言葉かけは誇りやプライバシーを損ねない様に心がけている。	地域包括支援センター主催の外部研修や法人内研修で、接遇について学んでいます。また、気になることは毎月のカンファレンスで話し合ったり、管理者が個別に指導するなどしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞ける環境作りに努め、要望を含めて自己決定を尊重した関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の状況や希望に合わせて生活できる様、またその時に出来ることはゆっくり本人のペースに合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容室への外出や、訪問理容を利用している。化粧や職員と一緒に服を選び季節にあったおしゃれが楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしたり、後片づけのお手伝い等役割を持ってもらっている。	管理者が献立し季節の行事食や本人の誕生日に希望のメニューを提供しています。屋外での肉・魚介類のバーベキュー、きずなカフェでのお茶タイム、食事やおやつ作りに参加するなど、食生活を楽しめるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ残さず食べられる量で、嫌いな食品も把握して提供している。水分も必要量が摂れるようにチェックしている。摂取能力に応じた形態を適宜見直しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケアの研修を受け状況に応じたブラシやマウスウォッシュ、保湿液を使用している。適宜歯科医とも連携し適切な口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。日中は出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。	オムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから綿パンツ等に移行するなど、入居から段階を追って排泄の自立に向けたケースがあります。トイレ誘導は羞恥心に配慮した声かけに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分が摂れ、食物繊維の多い食材、乳製品やオリゴ糖を摂り、出来るだけ下剤を使用しない様な取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	浴室は毎日使用出来るようにし、利用者の希望や体調に合わせて曜日や時間を変更出来るようにしている。	週2回概ね午前の時間帯で対応していますが、利用者の状況により柔軟に支援しています。ゆずを丸ごと湯船に浮かべたり、利用者の好みの湯加減や湯船に浸かる時間、入る順番など希望に応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に内服がわかる様にファイルしている。変更時には申し送りノートを活用し共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや、一緒に楽しめることを見つけ出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望で散歩や買い物、毎月地域のカフェへの外出をしている。家族や友人との外出、外食への支援も行っている。	天候の良い時期は毎日のように散歩に出かけ、そのまま足を伸ばしてスーパーへ行くこともあります。永山南きつなカフェや果実狩り、町内会の夏祭り、商店街の七夕祭り、冬祭りなど、季節感や五感刺激のある外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じてお金を所持したり、買い物の支払が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、電話を気軽にできるよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感を取り入れている。利用者の作品や写真を飾っている。ソファに座ってテレビを見たり、音楽を聞いたり心地よく過ごせる様にしている。	玄関はガラス仕様で明るく、人の出入りが分かる造りで、ユニット間も回廊型で繋がっています。外出時等の思い出の写真を掲示したり、季節感ある手作りの物を飾っています。快適な環境を提供できるよう、手入れがし難い箇所について点検する予定です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置、利用者同士の交流や独りでも静かに過ごす事が出来る様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具などを持参して頂いている。思い出の写真を飾ったりと、居心地よく過ごせる様にしている。	居室には介護用ベッドが備え付けられ、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれています。お気に入りの物や家族の写真を飾るなどして、安心して過ごせる居室づくりをサポートしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室は手すりを設置したりわかりやすいように表示している。安全に過ごせる様に家具の配置や環境整備に努めている。		